

自然配植の考えに基づく
県民型自然再生法について

地域性苗木を使って

八戸市森林組合

田子町の状況

- **人口の減少と高齢化**
(農業従事者の減少)
- **主な産業は農業**
(ニンニク・葉タバコ・稲作)
- **観光資源**
たぶこぶ創遊村・みろくの滝

青森県・岩手県堺不法投棄現場の状況

- 主要都市から遠い

八戸市から1時間30分、二戸市から1時間10分程度

- 田子町の中でも山奥
- 人家が少ない
- 傾斜面ではあるが、遠目から見えにくい



産廃処理場として立地条件が良い

青森県と田子町の将来予想？

人口の減少

- 町の若者が減少
- 高齢者の増加

予算の減少

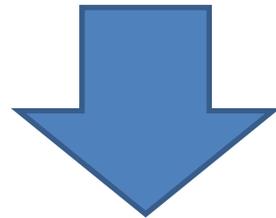
- 人口が減少する事により税収も減少
- 福祉等の予算増に伴う予算の偏り

人材の減少

- 人口の減少による人材のパイの減少
- 有能な人材の流出(他の町・他の県)

様々な物事が縮小に向い始めている

人口・予算・人材の減少



田子町だけでなく、青森県のほとんどの市町村も似た状態である。

このような状況で何ができるのか

- 産業の為の開放
- 観光施設の開発
- 将来へ記録や記憶の継承する建物の建築
- 自然環境林の造成

毎年予算を出して維持しなくてはならないもの
するか？

逆に収益が上がる(貸与も含め)ものにするの
か？

利用を考える1

- **農業・畜産**

産業廃棄物の処分のイメージが強い ×

- **リサイクル施設**

市街地に近い方が利用しやすい ×

- **一般・産廃処分場**

そのまま施設が有効利用出来て、収益が上がるが、町民感情を悪化させるの可能性がある ×

- **観光・芸術施設**

将来的に人口が少なくなる。趣味が多様化しており、集客能力が低下する。立地条件が悪い。 ×

利用を考える2

● 大規模不法産廃場を後世に伝える建物

絶対必要だが、管理や施設の維持を考えると、役場の一部を借りる。

又は、観光施設(創遊村)に建てる。◎だが、処分場内には施設の維持管理や、来客(観光客や遠足)が見込めない。△

● 公園化

維持費が掛かる。来客が見込めない。×

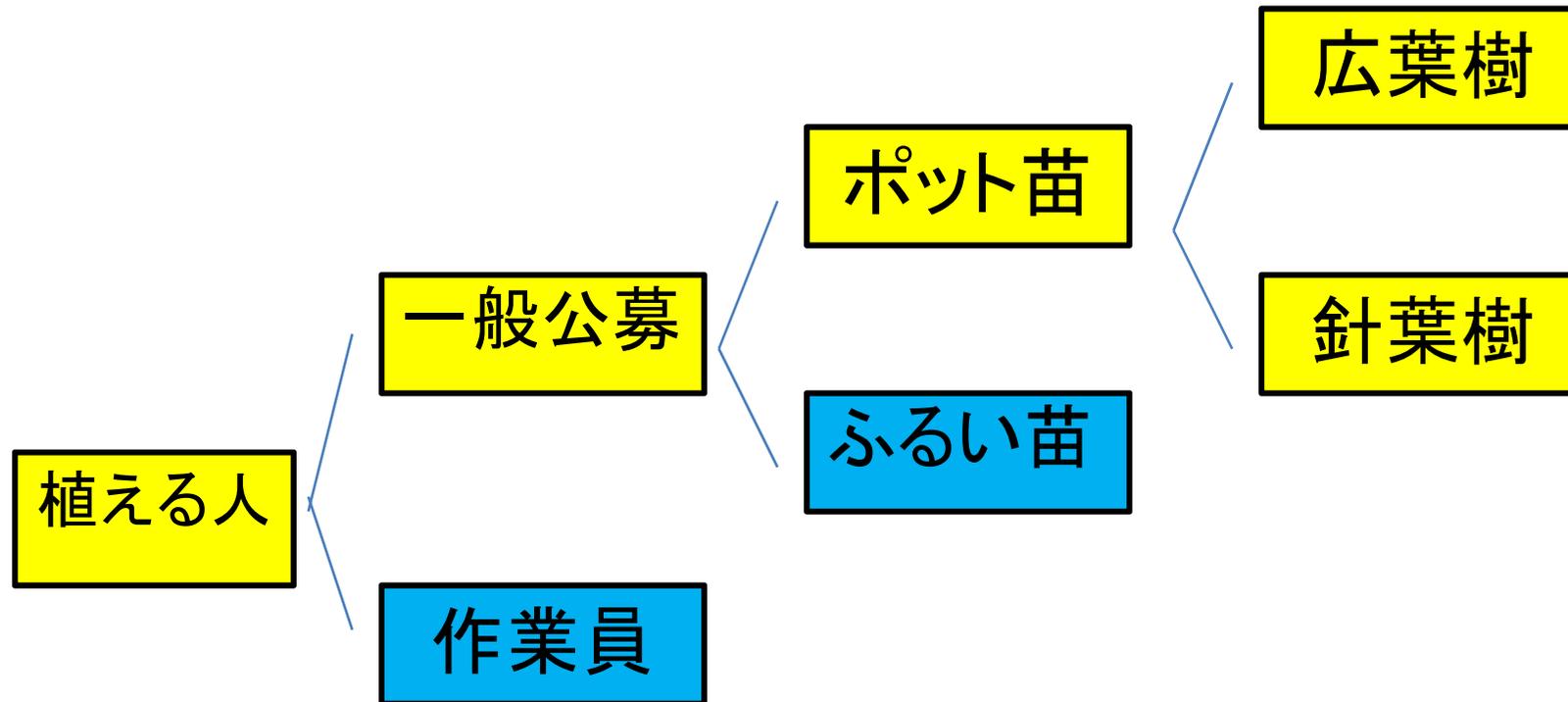
● 施設の貸与

場所を他の団体や会社等に利用させることで、収入が入る可能性がある。しかし、実際に利用されるかは不明。応募がない場合や誘致に失敗した場合は、逆に青森県の姿勢が問われる。?

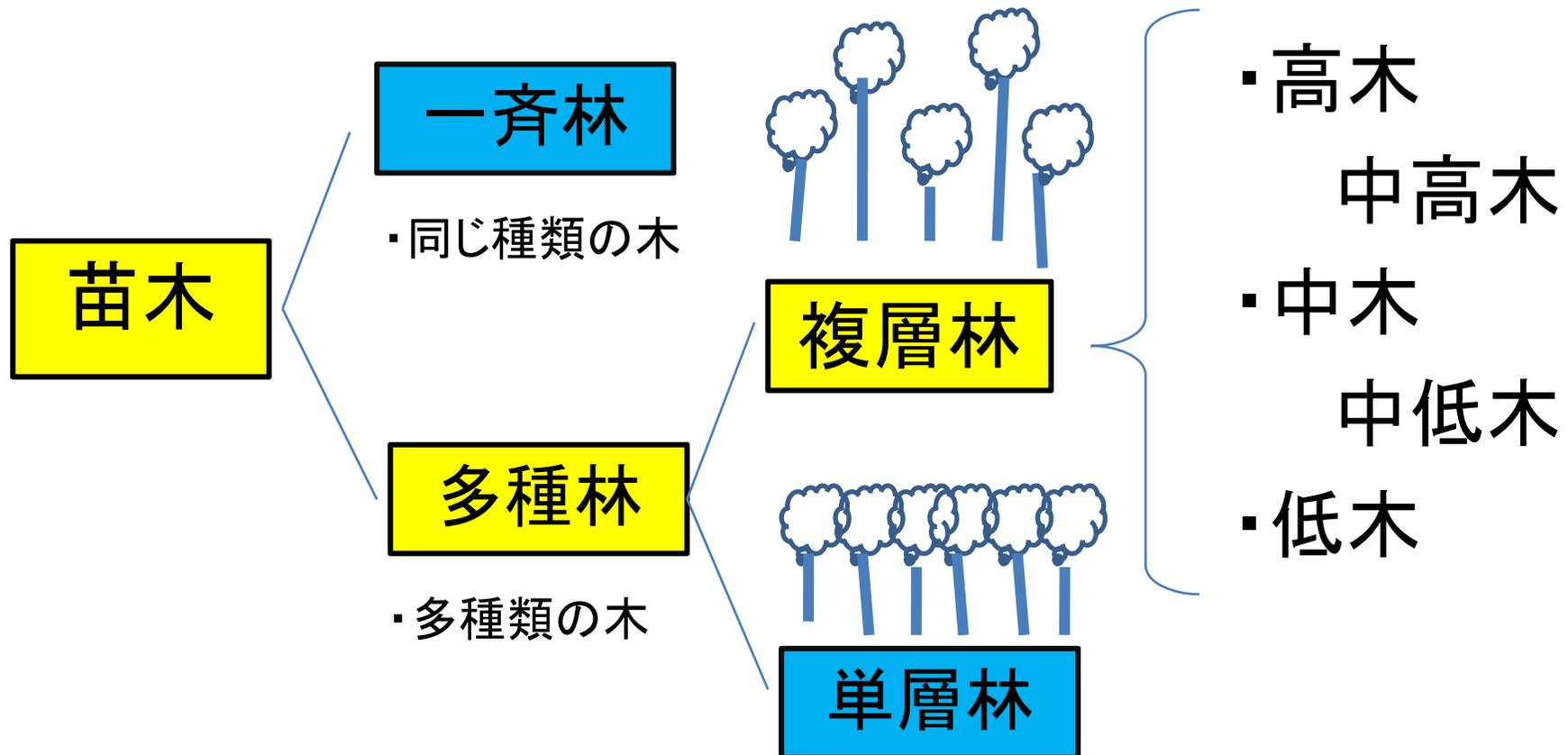
● 森林の再生化

土砂の流失、防備、二酸化炭素の吸収源、野生動物の住み家、将来的に成長すると、様々な利用が考えられる。継続した予算の必要性が無い。◎

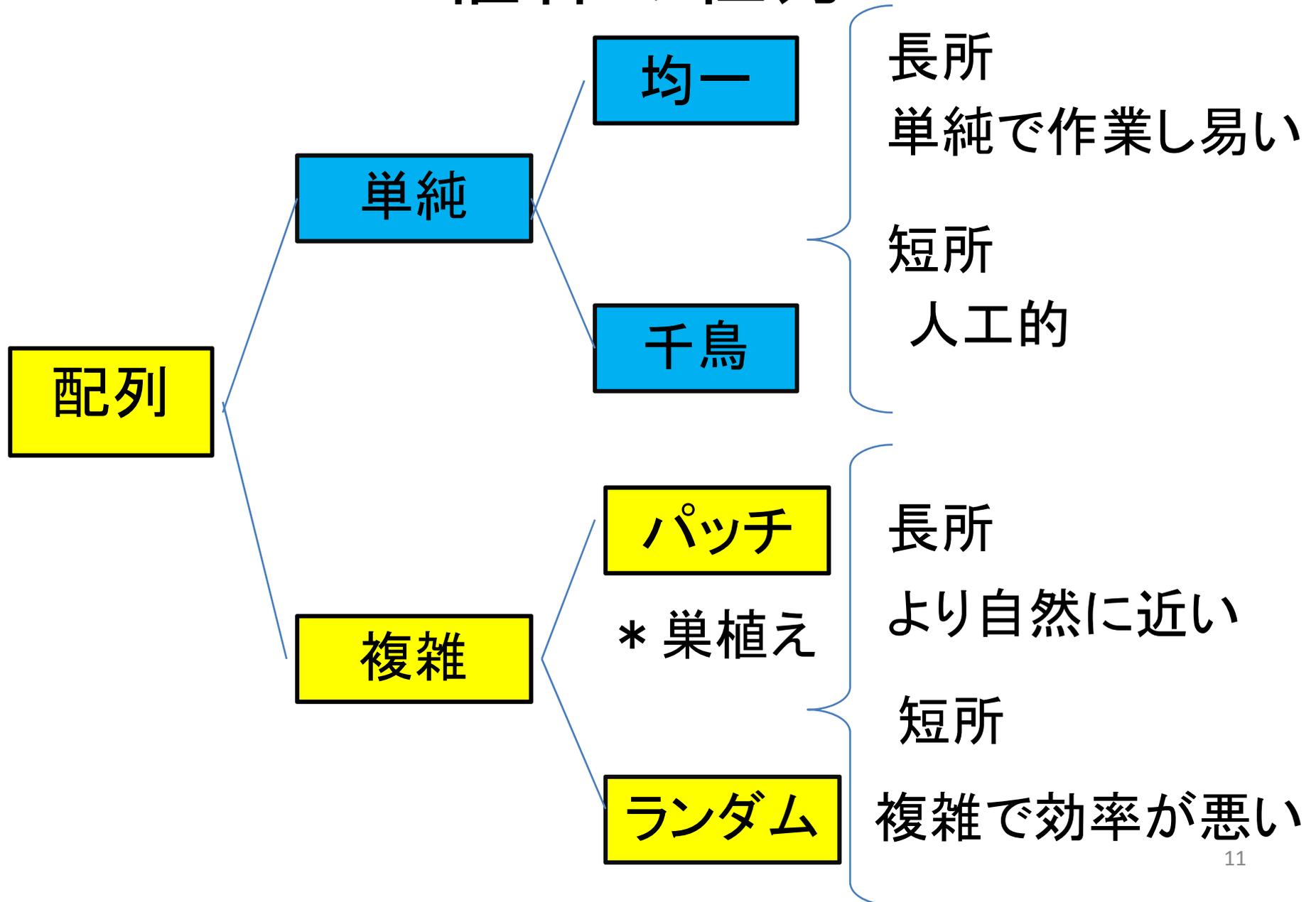
植林の仕方1



植林の仕方2



植林の仕方3



植林の仕方のもまとめ

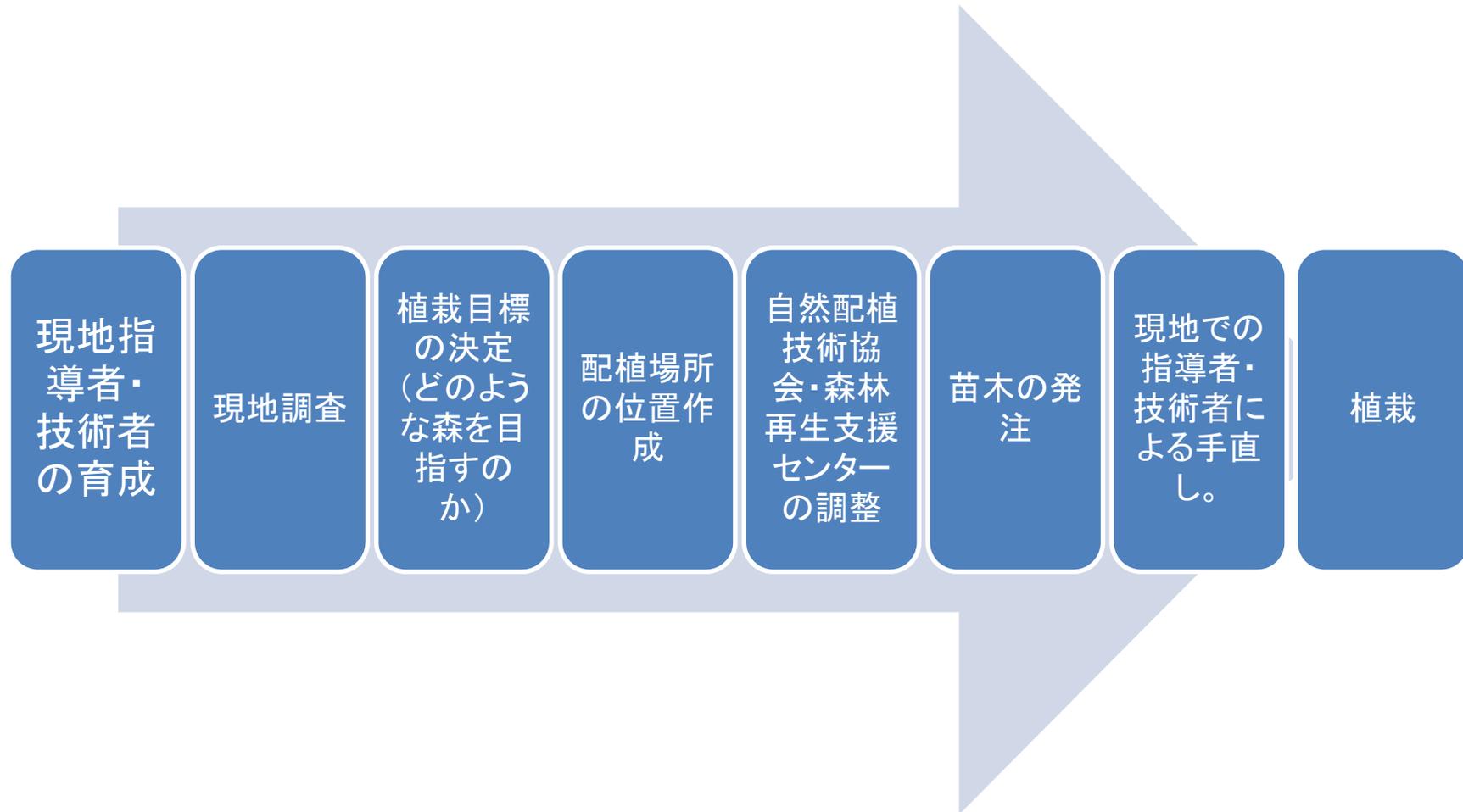
- 作業は一般公募で大人数。
- 素人でも植林し易いポット苗木。
- 針葉樹でも、広葉樹でも植林する。
- 様々な特徴を持った木を植える。
- 人工的な植林よりも、より自然に近い形で、それぞれの樹形や特性に合わせて植える。(効率だけを求めない)



自然配植技術

自然配植技術

自然配植技術の実践



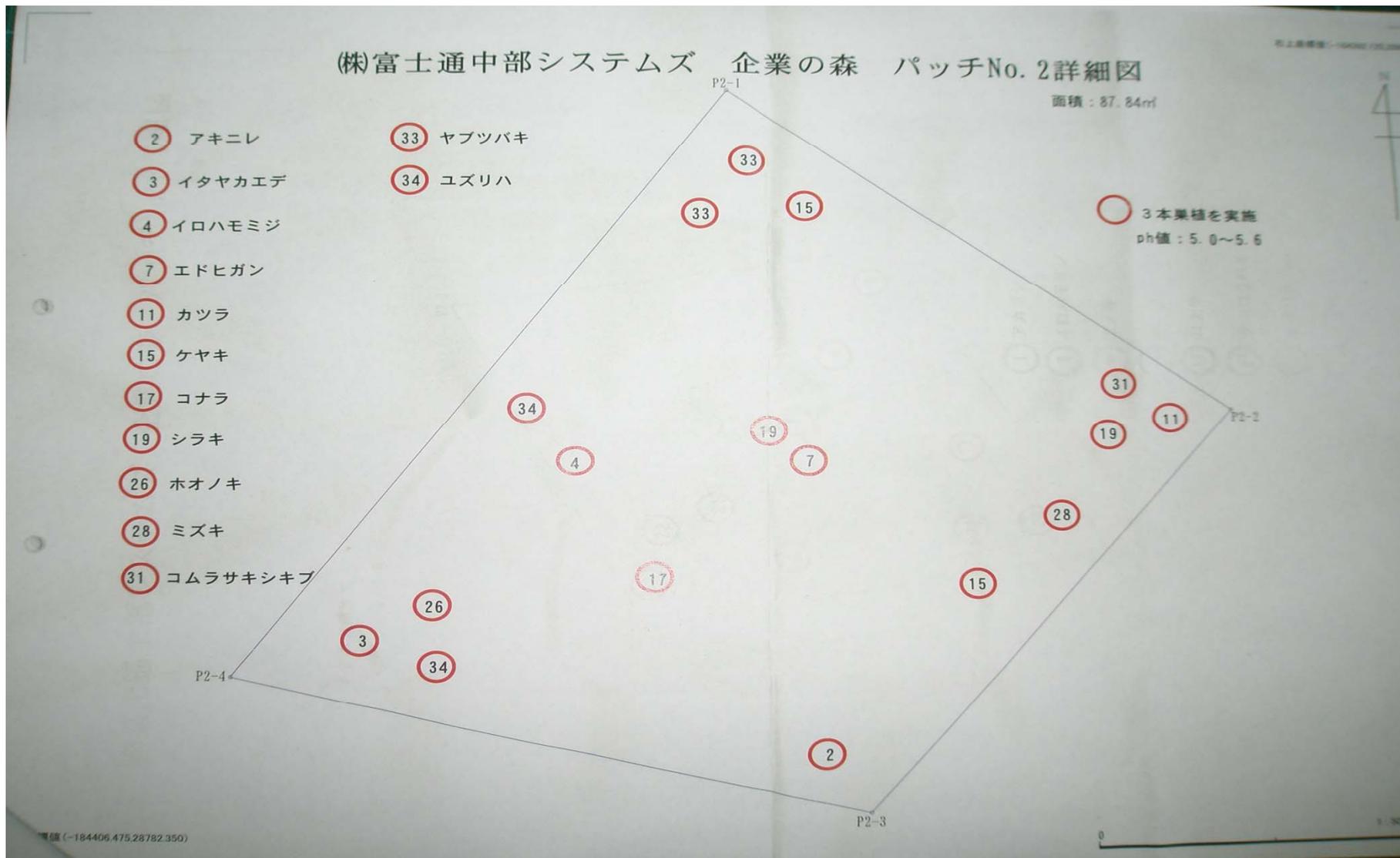
自然配植技術の講習会の様子1



自然配植技術の講習会の様子2



配植場所の位置作成



現地での指導者・技術者による手直し



植林作業状況



地域性苗木とは

- 広葉樹のポット苗木は数が少ないし、種苗法での移動の制限はない。
- 
- しかし、自然界の中では混ざり合う可能性がある。遺伝子レベルで攪乱する。
- 
- 出来る限り、地域で育つ木の種等を使って育てる。地産地植の考え。

今までの植林方法を反省して、 行きついた先が自然配植技術だった。

- ✓ なぜその位置に配植するのかを深く考える。また、技術者同士で検討する。土壌、菌類、樹形、水、光、温度等高度な知識と経験が必要。日々の山を見る見方が大きく変わる。
- ✓ 美的なセンスを兼ね備える。造園的な発想も持ち合わせる。
- ✓ 目的が異なると、柔軟に設計を変えられる。捉われ過ぎない。
- ✓ 地域性苗木を重要視している。
- ✓ 地域の生活スタイル、地域経済についても考える。そして地域の技術者を養成する。

・・・etc